



# 保・幼・小・中の連携ですすめる部落問題学習の取組

国東市人権・同和教育啓発推進協議会では、国見・国東・武蔵・安岐で、それぞれ「人権のまちづくり部会」を組織しています。「人権のまちづくり部会」には、学校教育班・社会教育班・研修班があり各班が研修を実施し、教育と啓発を進めています。

「人権のまちづくり武蔵部会」では、むさしこども園・武蔵保育所・武蔵東小学校・武蔵西小学校・武蔵中学校・武蔵分室・隣保館の職員と、部落解放同盟国東支部員が参加して、人権部落問題学習の研修を八月八日に実施しました。その一部を紹介します。

## 「部落問題学習のすすめかた」

県教育庁人権・同和教育課の指導主事を招いて、「部落問題学習のすすめかた」について研修を行いました。指導主事は、「部落問題学習」といって、できれば避けたいと考えていたり、未だに残る『寝た子を起さずな』(黙ってれば、いすれ誰も知らなくなる)という発想を持つていたり、差別のばらまきになりはしないかという不安を感じていたりする先生がいるかもしれません。その考えは改めなければなりません。何の学習もしていないと、間違った判断や考えを持つてしまい差別者になってしまいます。確かな学習を積み、部落問題を正しく理解

している人の方が、差別解消への意識は圧倒的に高いのです」と自身のことも語りながら熱く訴えました。

そして、読み物教材「ふみ切り向こう」を使って、どのように授業を進めるかを指導していただきました。教材「ふみ切り向こう」は、以下のよう内容です。

一雄は野球が好きだ。野球をやりだすと、夕方暗くなるのも忘れてしまう。毎日、父ちゃんの手伝いで、ずっと学校に行っていないけれど、野球だけは、知らない間におぼえてしまった。だから、少しひまがあったら、友だちと野球を始め。雑木林の前の空き地は、いつも、一雄たちの野球場だった。

「おい、『ふみ切り向こう』のものだろう。場所かさねえよ」、「ふみ切り向こう」のやつは「ふみ切り向こう」でやったらいいんだ」と隣の地区の子たちは口々に言います。

「ふみ切り向こう」のやつと試合なんかしないぞ。かえれ。かえれ」と差別されます。また、姉のサヨさんは、クリスマス之夜おそく帰ってきます。

「サヨちゃんは『ふみ切り向こう』でしょ」と言われ、映画に行く約束を破られ、電車に乗らないで、一人で暗い夜道を歩いて帰ってきたのです。サヨは今にも泣きそうです。お父さんは、サヨさんについています。「サヨ泣くんじゃな」と

「サヨだけじゃない。父ちゃんだって子どもころ、なんぼバカにされたかわからん。この者が道を歩いていただけで、『ふみ切り向こう』とバカにされた。父ちゃんたちは、腹がたつて石をぶつけてやったこともある。腹がたつて石をぶつけるやつよりも、人をバカにするやつの方が、まず、先に悪いんだ」と、びっくりするほど強く大きい声で言いました。

「人権問題、特に同和教育の解決(部落差別の解消)のために必要なことは、正しく学び、考え、『差別の根拠を打ち砕く』こと。そのために、授業に取り組み、教職員と児童生徒が共に学び考える、その活動を積み上げることが大切だということ」を、参加者が学びました。

その後、三つの分科会(職員研修・人権学習・部落問題学習)に分かれて実践報告等をもとに、今後の部落問題学習のあり方について熱い議論を行いました。(文責:武蔵分室 田城)

## ●第11回国東市隣保館まつり「こころの川柳」課題《笑顔》応募作品

夏祭り みんな笑顔で隣保館 国東町 木村 弘  
久々に 笑顔の友と語り合う 安岐町 河野 カズ子

# こころをつなぐ まちづくり

人権シリーズ vol.148

市長室から  
「こころ」は

## 市長日記

88

### 『プラスチックごみ』

国東市長 三河 明史



アカウミガメの産卵時期に入り、私も受け持ちの海岸を毎朝5時起きでパトロールしています。5時起きは、朝の弱い私には、ちとつらいものがあります。しかし、嬉しいこともあるのです。それは日の出です。国東は、東が海に面しており、国東の日の出は、実に見応えのある美しいものです。

しかし、その美しい国東の海も、その日によって綺麗な海岸であったり、ごみだらけの海岸であったりするのです。海藻の切れ端など自然のものなら問題ないのですが、最近では人工のものが目立つようになりまし。ペットボトル、プラスチックのバケツやその破片、ジュースの缶や瓶、漁具の一部と思われる多数のプラスチックの穴が空いた筒状のもの、そしてポロポロになった発泡スチロールの箱。特にこの発泡スチロールがくせ者で、脆くなってポロポロと細かくちぎれ、更に細かくなると海に溶け込んでいくようです。それらが、海藻に混じって大量に打ち上げられているのを見ると気分が悪くなります。

実は、世界では年間480万〜1270万トンものプラスチックごみが海に流出しているという試算があり、生態系や漁業に大きな影響を及ぼす恐れが指摘されているのです。このプラスチックごみは、分解されるのに数百年から数千年かかるらしく、小さくなくなっても海に漂っているそうです。この小さく微粒子状の1個が5ミリメートル以下の物を「マイクロプラスチック」と呼んでいるようです。

このマイクロプラスチックを小魚が餌と間違えて食べ、その魚を大きな魚や鳥などが食べる最終的には人の体内に入り、健康に大きな影響を及ぼす恐れがあるのです。以前テレビで、海鳥がビニールを食べ、胃の中で膨らむため、餌が食べられず、餓死してしまう例や、ウミガメの鼻にストローが刺さり、なかなかとれなくなっている例も見ました。

新聞報道によると、先日カナダで開かれたG7で、日米を除く5カ国とEUは「海洋プラスチック憲章」に署名し、産業界と連携して2030年までにプラスチック製品の利用・リサイクル・回収100%を目指し、使い捨てを大幅に減らす、ということとです。先月、EUの欧州委員会は、ストローや皿など一部のプラスチック製品の使用を禁止する規則を欧州議会に提案し、21年実施を目指し、フランスは、すべての使い捨てプラスチックを禁じる法律を20年1月1日に施行すると決めているそうです。

それに比べて、日本政府の対応の鈍いこと。四方を海に囲まれ、海の魚が食べられないものもそう先ではないとも言われているのに。NHKで話題のチョコちゃん、怒りますよ。「ボーっと生きてんじゃねえよ!」とね。

## くにさきキウイ学校生を募集します

国東市在住の新たにキウイを栽培したい定年退職者や帰郷者等を対象に、剪定や花粉付、圃場管理等のキウイ栽培の基礎を実践圃場と座学で講習します。将来高齢化等により作り手がないキウイ園を借受け、将来的に出荷できる農業者の育成を目標とします。

- 実施期間 10月中旬～平成31年9月(年6～7回の作業)
  - 実施場所 (座学) 大分県東部振興局及び国東市役所会議室 (実技) JA浜崎キウイ選果場周辺
  - 募集人数 20名程度(農作業のできる服装、手袋、長靴及びハサミ等は個人で準備願います。)
  - 応募条件 国東市内在住で、全期間を通して受講できる人
  - 受講料 約1,000円(講習期間を通して、農作業事故の共済掛金等、収穫したキウイ代含む)
  - 申込期間 9月28日(金)まで
  - 提出先 農政課園芸畜産係または、各総合支所地域産業建設課まで
- ※申込用紙については、提出先、ホームページ、各道の駅・里の駅にて配布しています。定員を超えた場合は、先着順とさせていただきますので、ご了承ください。

【問合せ】 大分県東部振興局 生産流通部 果樹・花き班 ☎0978-72-1141  
 国東市役所農政課・園芸畜産係 ☎0978-72-5167  
 公益社団法人国東市農業公社 ☎0978-67-1119